2025年4月18日作成 Ver.2.0

《情報公開文書》

口腔扁平上皮癌における Rab44 発現の後ろ向き観察研究

研究の概要

【背景】

口腔（舌・頬粘膜・歯肉）・鼻腔・咽頭を含む頭頸部領域に発生する悪性腫瘍は90%以上が扁平上皮癌です。我が国では年間で約3万人が罹患し、治療には手術・放射線療法・化学療法がおこなわれていますが、転移や再発が起こりやすいがんでもあります。また、外科手術によって舌や顎の骨が失われることで、患者さんの生活の質（QOL）も著しく低下します。これらの問題から、早期診断や新規治療法が求められています。

【目的】

本研究は頭頸部がんの中でも特に患者数が増加している口腔扁平上皮癌に関して、病気の発生や進展に関わる分子を探索し、その分子の発現と腫瘍の大きさや悪性度、予後との関連性を調べることで診断や治療に役立てることを目的にしています。

【意義】

標的分子の発現と臨床データとの相関を検討することで、予後予測に重要な知見を得ることができ、口腔扁平上皮癌の早期診断や治療成績の向上が期待されます。

【方法】

研究対象者の診療録より情報を収集するとともに、病理部・病理診断科で保管されている研究対象者の口腔扁平上皮癌の原発部手術材料のパラフィンブロックから切片を作成して一般染色と標的分子に対する抗体を用いた免疫組織化学を行い、分子の発現量や発現部位を調べます。

染色の結果によって研究対象者を陽性群と陰性群に分類し、分子の発現状態と臨床パラメータの相関を解析します。

対象となる患者さん

2004年1月1日～2015年12月31日の間に長崎大学病院口腔外科で生検にて扁平上皮癌と診断され、原発切除及び頸部郭清術を受けた患者さんが対象となります。

研究に用いる試料・情報

●研究に用いる情報

口腔扁平上皮癌の原発切除・頸部郭清術を受けた患者さんの病理診断報告時における下記の情報を診療録より収集します。

- 原発切除病理診断報告時の年齢
- 性別
- 原発部位
- リンパ節転移の有無
- 遠隔転移の有無
- 局所再発日
- 転移の発生日
- 治療経過
- 最終来院日

● 研究に用いる試料

口腔扁平上皮癌の生検・原発切除術・頸部郭清術から得られた薄切可能なパラフィンブロックを使用し、Rab44 タンパクの発現を検討します。

本研究で利用する試料・情報等について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

試料・情報の利用開始予定日

本研究は 2025 年 5 月 29 日より「研究に用いる試料・情報」を利用する予定です。

あなたの試料・情報をこの研究に使われたくない方は下記の「問い合わせ先」までご連絡頂ければ対象者から外します。その場合もあなたの治療等に不利益になることはありません。ご連絡のタイミングによっては対象者から外せない場合もあります。あらかじめご了承ください。

研究実施期間

研究機関長の許可日～2028 年 3 月 31 日

研究実施体制

研究責任者

所属：長崎大学 医歯薬学総合研究科
フロンティア口腔科学分野
氏名：門脇 知子
住所：長崎県 長崎市 坂本 1-7-1
電話：095 (819) 8504

試料・情報の管理責任者

長崎大学病院 病院長

問い合わせ先

【研究の内容、試料・情報等の利用停止の申し出について】

長崎大学 医歯薬学総合研究科 フロンティア口腔科学分野 門脇 知子
〒852-8501 長崎市坂本1丁目7番1号
電話：095（819）8504

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）

苦情相談窓口：医療相談室 095（819）7200
受付時間：月～金 8：30～17：00（祝・祭日を除く）